

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名：

附属図書館

部局長名：

甲賀 研一郎

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>附属図書館は、図書館の物理資源(図書資料、施設・設備等)と情報資源(電子資料、オンラインサービス等)を活用したハイブリッドな学修環境を整備するため、アカデミックライティングをはじめとした学修サポートを、新しい時代を意識した方法により実施する。また、遠隔授業・学修に利用できる電子資料を整備し、活用を促進する。</p>	<p>目標に関連する年度計画の番号</p> <p>14-1</p> <p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学生の入構が禁止されている状況においても学修・研究に必要な図書館資料を提供するため、郵送サービスを実施するとともに、「図書館資料対面提供に関する業務継続戦略(BCS)」の承認を受け、図書館窓口での対面提供も実施した。これにより、延べ236人、650件の資料提供を行い、制限下においても学生・教職員のニーズに継続的に応えた。 ●各部署のオンライン授業における文献検索ガイダンスやアカデミックライティング講習会を実施するとともに、データベースや電子書籍の利用講習会のオンライン開催や動画の公開等、利活用の促進を図った。これらの講習会の開催は、計14回となり、対面・オンライン(リアルタイム型)の受講者は431名、オンライン(オンデマンド型)の動画視聴は、約100回(2022年3月24日時点)となった。 ●遠隔授業・学修支援のため、電子書籍550点を受け入れた(前年度同時期913点)。今年度は特に、シラバス掲載図書について整備し、前年度38点から235点まで拡充した。また試験サービスを実施、効率的な資料整備に役立てると同時に、定期的な一斉メール等により広報を強化、利用促進を図った。
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>知の資源を地域・世界に発信するため、所蔵する貴重資料のデジタル公開のあり方を検討する。学生、一般社会に向けたアウトリーチ活動として、貴重資料等の展示会やセミナー等を多様な方法で実施することにより、教養教育及び社会貢献に寄与し、図書館を異分野・異社会との交流の場とする。</p>	<p>目標に関連する年度計画の番号</p> <p>14-1</p> <p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国文学研究資料館及び県内自治体(真庭市)との協力により原資を得、貴重資料の公開推進に着手した。特に、国文学研究資料館の「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」事業に協力し、池田家文庫等のデジタル撮影、マイクロフィルムからのデジタルコンバートを行うため、「データベース構築に関する覚書」を締結(令和3年9月)し、令和3年度分として貴重資料55点、マイクロフィルム8,843点の電子化を実施した。公開は、令和4年度以降に行う。 ●学内外の機関等と連携協力し、池田家文庫絵図展(10~11月)、知好楽セミナー(3月)、公開講座(3月)、館内展示企画(4企画)を実施した。特に知好楽セミナー、公開講座は、対面とオンラインを交えたハイブリッド形式で開催した。参加者アンケートでは、対面、オンライン双方の継続要望があり、物理空間だけではなく、ネット空間もあわせて、図書館を異分野・異世界の交流の場とすることができた。 ●『池田家文庫資料叢書』(岡山大学出版会)全6巻を電子書籍化、機関向け販売を開始すると同時に、一部頁と続編については、機関リポジトリから、無償公開を行った。これにより、貴重資料の可視性を高め、社会における活用を促した。
<p>④管理運営領域</p> <p>附属図書館運営委員会を開催して着実な組織運営に努めるとともに、館内におけるミーティングを定期的に開催し、内部統制を推進する。また、安全衛生やセキュリティ等の講習および各種研修を職員に積極的に受講させ、図書館の知識に加えて法令遵守等に対する意識を向上させる。</p>	<p>目標に関連する年度計画の番号</p> <p>14-1</p> <p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ●附属図書館運営委員会を開催し(6月、2月)、諸課題について、検討する場を設けた。1月には学生・館長懇談会を実施、直接学生からの要望を聞き、改善につなげた。 ●毎週、館長・副館長・部課長でのミーティングを行うほか、月1回の部課長・主査等のミーティングにより、館内の課題解決および情報共有を行った。 ●各種講習および研修については、その都度職員に周知、積極的な受講を勧めた。2月には職員を対象としたハラスメント研修会を館内で実施、コンプライアンスに関する意識向上を図った。
<p>⑤センター・機構等業務</p> <p>本学の学修・研究の基盤となる電子ジャーナル・データベース・電子書籍等について、「第4期中期目標期間における電子ジャーナル等の整備方針」(令和2年12月25日学長裁定)に基づき、計画的な整備を行う。また、学術論文のオープンアクセス化を推進し、研究成果の発信を拡充する。</p>	<p>目標に関連する年度計画の番号</p> <p>14-1</p> <p>センター・機構等業務における目標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ●次期前半のタイトル選定を実施し、結果を全学に周知した。選定にあたっては電子ジャーナル評価のための客観的指標を活用、また同等のデータベースとの比較検討を行うなど、研究基盤の強化につなげた。 ●オープンアクセスへの貢献の一環として、図書館HPに「オープンアクセス支援」頁を新設、APC(Article Processing Charge、論文処理費用)の免除・割引や、ハゲタカジャーナルへの注意喚起等、研究者が論文を投稿する際に役立つ情報を整理し、広報を行った。 ●ジャパンリンクセンター(論文等にDOIを付与する機関)規約改正に伴い、「岡山大学学術成果リポジトリ登録要項」を改正、メタデータの円滑な流通のための整備を行い、発信を強化した。また研究データ専用のDOIであるDataCite DOIの利用を可能とし、コンテンツへのアクセスの安定化を図った。